

# 同世代の仲間との ネットワークが生んだ相乗効果！

城陽富士工業 株式会社

## 小物量産から長尺加工主体に。 さらに超高精度加工へシフト

城陽富士工業は城陽市にある精密機械部品加工の会社だ。

「現在は液晶パネル関連や半導体関連の仕事が多いです。リーマンショック以降は落ち込みましたが、現在は航空機分野など、仕事も戻ってきました」

と語るのは、専務の江森正和氏。

城陽富士工業の事業の強みは、大きく4つに分かれる。

「1つめが長尺加工。これが一番わかりやすいです。細長いモノは城陽富士工業でPRしています。2つめが模型加工。立体的な物の精度維持ができます。3つめが超高精度加工。ミクロン単位の精度を維持します。そして4つめが小物量産。以前のメイン業務です」

以前は、小物量産と長尺加工のみだった

が、1台しかなかった長尺加工の機械が常に忙しいことに気がついた。

「設備投資のベクトルも変更し、模型加工と超高精度加工の機械を入れたんです。すると航空機関連の仕事なども舞い込むようになりました」

さらに、品質管理にも力を入れて社員が国家資格を取得し、三次元測定器等で全品検査するようにしたという。

「クライアントから精度を出して保証する必要があると説かれて取り組みました。周囲の環境に配慮するなど、機械メーカーやクライアントに助言をもらいながら今の体制を作りました。弊社のように加工現場に石定盤を置いて、常に歪みチェックをするところは少ないはずですよ」

## 人生を変えた機青連への入会

江森専務にとってターニングポイントになったのが、京都機械金属中小企業青年連絡会(機青連)への入会だという。

「機青連での人との出会いは大きな財産です。同世代や年下が積極的に参加して勉強するのを見て、私も成長できましたし、代表幹事を務めさせてもらうなど貴重な経験ができました」

また、機青連の仲間3社と合同で、(財)京都産業21にサポートしてもらいながらISO14001を取得した。

「同じ規模、事業内容の会社が集まる機青連だからこそ実現できたのだと思います。品質検査の国家検定試験(検査技師)取得も、機青連の仲間数社と共同で取り組みました。また、京都テクノロジーユニットというグループを立ち上げて、情報交換や展示会出展もやっています」同じ世代の人間が同じ悩みを持って集まっているのが機青連だという。

「モットーは『育とう、育てよう、育ちあおう』です。若い人が中心になり、自問自答を重ねる中で仲間が増え、学んだことを自社の経営に反映できるんです」

若い時に機青連というモノづくり企業限定、同世代の人が集まる場所で勉強できたことは大きいという。

「異業種との交流はこれからです。機青連で学んだことを会社に導入するなど、さまざまな効果が自分自身の中で、自分の周囲で起こっています」

## モノづくりネットワーク構築で どんなオーダーや要望にも対応

城陽富士工業の強みは、長尺加工、模型加工、超高精度加工、小物量産を含めた



きちんと整理整頓された工場内



加工機械の横に検査台が置かれ、すぐに検査できる



最後のミクロン単位の微調整は、人間の感覚が頼り

どんなオーダーにも応えることだ。仕事も安易に断らず、受注するための方法を考えるようになりました。

「弊社一社では応えられないオーダーも京都テクノロジーユニットを核とした全国のモノづくりネットワークで対応します。これは営業面でも非常に有利です」もちろん、社内のモチベーションを上げ、能力を引き出せる環境づくりも意識している。

「『失敗して考える』『挑戦して学び、結果に繋げる』という空気が生まれています」

今後、長尺加工がどこでもできるようになれば、次の強みを探すという。

「変化に対応できる会社、人を育てれば、生き残れます。これからは人を育てることに注力したいですね」

## 無駄を省いて海外と競争できる 『管理』で会社は強くなる！

最近『管理すること』に力を入れている。実は機青連が『管理できる会社』にする必要性を認識したきっかけだと江森専務は語る。

「先日、生産管理ソフトを導入しました。一つひとつの仕事が適正な時間、コストで実施されているかが一目でわかるようになりました。シビアにコストを見れば

まだ無駄を省く余地がありましたね。さらに量産品も適正化を図れば、海外とも競合できる競争力が身につきます。適切な管理が競争力をアップさせています」海外の競合企業の価格なども社員に伝え、少しでもコストを削減できないか社員全員で検討しているという。

「情報をオープンにし、加工方法や工具調達でのコストダウンなど、物を作るだけではなく、考えることを社員に求めています。コスト削減努力もモチベーションの源泉になっていますよ」

## お金にならないサービスが 次の仕事を生むポイント！

江森専務が機青連で得たものは人間関係だけではない。

「お金をもらう仕事の周辺にあるサービスが重要だということを機青連で学びました。お金にならないことや人のために、どれだけ自分が時間を作り、行動できるか。相手のことを考え、お金にならない部分、仕事の周辺にあるサービスの部分をいかにやるかが大切だと。特に中小企業は、ただモノを作るだけでは勝負できません。お客様が望むことを実現し、困っていることを解決できる企業じゃないと生き残れません」

これからは国内だけでなく海外から受注

することもあろう。

「現在は航空機部品などで英語表記の図面などがありますが、英語を読む能力などを身につけないと、そもそも仕事できません。英語が読めないから仕事できない、と断る人がいるのなら、それこそが仕事の種であり、その部分にも真摯に対応することが次の仕事を生みます」

モノを作るのは、同じ機械で作るのだからどこも同じと江森専務は言う。

「最後は蓄えたノウハウや、お金にならないことをどこまでやるかが生き残る分岐点になると思います」

新しいことをやろうと思えば、時間が掛かる上に、必ずしも成功するわけではない。しかし、それでもそれをやらなければならない、と江森専務は語る。

「新しい挑戦ができる企業としての余裕を持っておかなければなりません。リーマンショックで仕事が無い時を経験して、城陽富士工業は社員自らの努力、学習の意欲が高くなりました。会社全体で学び、チャレンジする気風が会社を成長させるのだと実感しています」

取材協力/Short Cappuccino 中直照



長尺加工の機械が現在の精密加工へシフトする足がかりとなった

### 城陽富士工業 株式会社

〔住所〕京都市城陽市平川西六反24  
〔業 種〕精密機械部品加工  
〔代表者〕代表取締役 江森 正  
〔資本金〕1,350万円  
〔従業員数〕約30名  
〔取材日時〕平成22年9月8日(金)  
〔取材対象者〕専務取締役 江森正和氏

〔沿革〕  
昭和55年4月 創業(精密機械部品加工)  
昭和59年4月 法人化 本社工場新設  
平成元年1月 平川工場新設  
平成18年5月 本社事務所新設  
平成20年3月 ISO14001認証取得



専務取締役  
江森正和氏